

富田林市文化財調査報告65

平成30年度

富田林市内遺跡群発掘調査報告書

2019. 3

富田林市教育委員会

はじめに

富田林市は、市の中心を南北に流れる石川による低地と、その周辺の緑豊かな丘陵に囲まれた土地として昔から人々の生活の場となり、その状況が地上のみならず地下に埋もれた文化財として現在伝えられております。

この土中に残された文化財は、発掘調査を行うことによって、遺構や遺物という形で私たちに昔のことを教えてくれる貴重な文化財です。開発に伴う発掘調査を行って得た出土品や記録については、それらの調査・研究はもとより、広く活用を行い、大切に後世へ守り残していくなければなりません。

この報告書は、平成30年度に実施した緊急発掘調査事業についてまとめたものです。調査としては、いずれも小規模なものでしたが、こうした地道な記録の積み重ねを行うことで、本市の歴史の一端が明らかになっていくものと考えています。

更には、報告内容が学術的な方面のみならず、学校・生涯学習教育の場などでも広く活用されればありがたい事だと思っております。

最後になりましたが、緊急発掘調査および本書の刊行におきまして、ご理解とご協力を頂きました関係者の皆様に、心より感謝を申し上げます。

平成31年3月

富田林市教育委員会
教育長 芝本 哲也

例 言

1. 本書は、平成 30 年度国庫補助事業「市内遺跡発掘調査等事業」の報告書である。
2. 本事業は、富田林市教育委員会文化財課が、平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日にかけて実施した。
3. 平成 30 年の現地調査および整理作業は、同課職員 河東 潤・角南辰馬・林 正樹、同課非常勤職員 渡邊晴香・栗田 薫・西村雅美が担当し、同課非常勤職員 桑本彰子がこれを補佐した。
4. 本書の第 2 章以降の調査成果については、整理作業等の都合から、平成 30 年 9 月 30 日までに現地調査が終了したものを掲載した。
5. 第 6 章の執筆は西村・角南が行い、それ以外の章の執筆と編集は角南が行った。
6. 平成 30 年の現地調査および整理作業には、以下の者の参加を得た（敬称略）。
阿部大誠、大澤 嶺、北本麻奈人、谷重祥也、吉末和希

凡 例

1. 本書で使用する標高は、東京湾標準潮位（T. P.）で表示している。
2. 現地調査における土色の色調は『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄 1970）を使用した。
3. 引用・参考文献は巻末に示した。

目 次

第1章 平成30年の調査状況 ······	1
第2章 甲田遺跡（KD 2017-1）の調査	
第1節 調査の経緯と経過 ······	5
第2節 調査の成果 ······	5
第3章 錦織遺跡（NK 2017-1）の調査	
第1節 調査の経緯と経過 ······	7
第2節 調査の成果 ······	7
第4章 佐備川西岸遺跡（SGW 2017-1）の調査	
第1節 調査の経緯と経過 ······	9
第2節 調査の成果 ······	9
第5章 平町二丁目における調査	
第1節 調査の経緯と経過 ······	12
第2節 調査の成果 ······	12
第6章 樟木谷古墳・小金平古墳群（KGH 2018-1）の調査	
第1節 調査の経緯と経過 ······	14
第2節 調査の成果 ······	16
第3節 まとめ ······	18
参考・引用文献 ······	19
報告書抄録	

挿 図 目 次

図 1 市内遺跡分布図（S = 1 / 40,000) ······	4
図 2 調査位置図（S = 1 / 2,000) ······	5
図 3 トレンチ配置図（S = 1 / 200) および土層断面柱状図（S = 1 / 20) ······	6
図 4 調査位置図（S = 1 / 2,000) ······	7
図 5 トレンチ配置図（S = 1 / 200) および土層断面図（S = 1 / 40) ······	8

図 6 調査位置図 (S = 1 / 2,000) ······	9
図 7 トレンチ配置図 (S = 1 / 200) ······	10
図 8 2 トレンチ遺構平面図 (S = 1 / 40) ······	10
図 9 土層断面図 (S = 1 / 40) ······	11
図 10 調査位置図 (S = 1 / 3,000) ······	12
図 11 トレンチ配置図 (S = 1 / 200) および土層断面柱状図 (S = 1 / 10) ······	13
図 12 調査位置図 (S = 1 / 3,000) ······	14
図 13 樺木谷古墳地形測量図およびトレンチ平面図 (S = 1 / 150) ······	15
図 14 1 トレンチ東壁土層断面図および遺構平面図 (S = 1 / 50) ······	17
図 15 2 トレンチ南壁土層断面図 (S = 1 / 50) ······	18

表 目 次

表 1 発掘届（通知）受理件数 ······	1
表 2 発掘調査一覧 ······	2
表 3 試掘調査一覧 ······	3
表 4 1 トレンチ東壁土層断面図土層一覧 ······	16

写 真 目 次

写真 1 トレンチ近景（上：北から 下：西から） ······	6
写真 2 トレンチ北壁状況（南から） ······	8
写真 3 トレンチ近景（左：西から 右：南西から） ······	13

図 版 目 次

図版 1 佐備川西岸遺跡 (SGW 2017-1)	
1 トレンチ東壁（西から） 2 トレンチ南壁（北東から） 2 トレンチ遺構（北東から）	
図版 2 樺木谷古墳・小金平古墳群 (KGH 2018-1)	
調査前の古墳遠景（北から） 除草後の古墳近景（南から）	
図版 3 樺木谷古墳・小金平古墳群 (KGH 2018-1)	
1 トレンチ 溝状遺構検出状況（北から） 1 トレンチ 溝状遺構完掘状況（北西から）	
図版 4 樺木谷古墳・小金平古墳群 (KGH 2018-1)	
1 トレンチ 鉄製品出土状況（西から） 1 トレンチ 尾根上部分全景（北から）	
2 トレンチ全景（西から）	

第1章 平成30年の調査状況

平成30年1月から12月において、文化財保護法第93条・94条に基づく発掘届出・通知書の提出状況は、表1のとおりであった。合計件数は前年に比べると1件減少ただけで、特筆すべき変化はない。工事の目的別では、分譲住宅が15件増加している。これは一昨年に中野遺跡（中野町二丁目）、昨年に毛人谷遺跡（寿町二丁目地内）での比較的規模の大きい宅地造成があつたことが要因となっている。

平成30年において発掘調査（事前調査および本調査）を実施したのは、表2に示した27件であり、前年に比べると7件増加した。民間開発に伴うもので特筆すべきものとしては、畑ヶ田遺跡の調査（事前調査：番号9、本調査：番号12）である。申請地の大部分が埋蔵文化財包蔵地外であったが、その範囲からも遺構・遺物を確認したため、遺跡範囲を南東へ拡大することになった。畑ヶ田遺跡および畑ヶ田南遺跡については、近年の市営住宅の建て替えに伴う調査で、官衙的要素をもつ飛鳥～奈良時代の遺構・遺物を多数確認し、多くの所見が得られている。今年度の調査では、古代の遺構は東側を中心に分布しており、集落の西限を考えるうえでも重要である。

また、本市では開発指導要綱に基づき、埋蔵文化財包蔵地外で試掘調査を実施している。件数は表3に示した19件で、前年に比べると8件増加した。これらのうち、3件の調査（番号7・13・17）で遺物を確認したが、いずれも土層内に土師器の細片がごく少量認められたもので、遺跡の新規発見には至らなかった。

さて、平成30年に国庫補助事業として実施した調査は5件あり、うち1件は埋蔵文化財包蔵地外での試掘調査である。本書の次章以降で報告するのは、内業調査が完了していない喜志遺跡の調査（番号22）を除く4件の調査と、前年に外業調査を実施し、本年に内業調査が完了した甲田遺跡の調査を合わせた計5件である。

表1 発掘届（通知）受理件数

	発掘届出（93条）						発掘通知（94条）						合計
	事前	立会	慎重	遺憾	進達	小計	事前	立会	慎重	遺憾	進達	小計	
宅地造成	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4
個人住宅	9	20	7	0	0	36	0	0	0	0	0	0	36
分譲住宅	2	19	11	0	0	32	0	0	0	0	0	0	32
共同住宅	2	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
工場	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
店舗	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
その他建物	3	1	1	0	0	5	0	0	0	0	0	0	5
ガス	0	0	30	0	0	30	0	0	0	0	0	0	30
電気	0	0	28	0	0	28	0	0	0	0	0	0	28
水道	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	7	7
下水道	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4	4
その他開発	0	2	1	0	0	3	0	1	0	0	0	1	4
合計	21	42	80	0	0	143	0	5	7	0	0	12	155

表2 発掘調査一覧

番号	調査日	所在地	遺跡名	調査原因	調査面積(m ²)	調査結果	担当者	備考
1	1/23	中野町一丁目	中野遺跡	店舗	2.5	遺構・遺物なし	渡邊	
2	1/24～29	錦織東一丁目	錦織遺跡	個人住宅	4.1	遺構なし・遺物あり	角南	NK2017-1【国庫補助事業】
3	2/7	桜井町一丁目	桜井遺跡	宅地造成	4.7	遺構・遺物あり	林	6の事前調査(SI2017-1)
4	2/19～23	大字佐備	佐備川西岸遺跡	個人住宅	13.9	遺構・遺物あり	角南	SGW2017-1【国庫補助事業】
5	2/21	若松町五丁目	中野遺跡	共同住宅	5.9	遺構・遺物あり	渡邊	7の事前調査(NN2017-1)
6	3/6～4/25	桜井町一丁目	桜井遺跡	宅地造成	379.8	遺構・遺物あり	林	SI2017-1
7	3/19～4/4	若松町五丁目	中野遺跡	共同住宅	66.7	遺構・遺物あり	渡邊	NN2017-1
8	4/9	錦織東三丁目	錦織南遺跡	その他建物	3	遺構・遺物なし	渡邊	
9	4/13	若松町一丁目	畠ヶ田遺跡	店舗	10.4	遺構・遺物あり	角南・ 渡邊	I2の事前調査(HD2018-1)
10	5/7	甲田六丁目	トユノ浦遺跡・新家遺跡	宅地造成	16	遺構・遺物なし	渡邊	
11	5/17	昭和町二丁目	新堂南遺跡	宅地造成	6.8	遺構・遺物なし	渡邊	
12	5/28～7/6	若松町一丁目	畠ヶ田遺跡	店舗	463	遺構・遺物あり	渡邊	HD2018-1
13	6/11	若松町西二丁目	中野遺跡	個人住宅	1.2	遺構・遺物なし	林	
14	6/22	別井一丁目	別井遺跡	その他建物	0.5	遺物あり	林	包含層を確認(BI2018-1)
15	7/5	甲田一丁目	甲田遺跡	個人住宅	3	遺構・遺物なし	渡邊	
16	8/3	錦織東一丁目	錦織遺跡	個人住宅	3	遺構なし・遺物あり	林	設計変更により影響なし(NK2018-1)
17	8/8～29	美山台	樟木谷古墳・小金平古墳群	個人住宅	46.3	遺構・遺物あり	林・ 西村	KGH2018-1【国庫補助事業】
18	8/23	喜志町一丁目	喜志南遺跡	宅地造成	4.4	遺構・遺物なし	渡邊	23の事前調査(KSS2018-1)
19	8/28	別井三丁目	別井遺跡	個人住宅	5.3	遺構・遺物なし	渡邊	
20	9/13	喜志町三丁目	喜志遺跡	個人住宅	1.3	遺構・遺物あり	林・ 西村	22の事前調査(KS2018-1)
21	10/12	甲田一丁目	甲田遺跡	その他建物	6.8	遺構・遺物あり	渡邊	施工時に再度立会調査予定(KD2018-1)
22	10/15～24	喜志町三丁目	喜志遺跡	個人住宅	100	遺構・遺物あり	林・ 西村	KS2018-1【国庫補助事業】
23	10/22～1/16	喜志町一丁目	喜志南遺跡	宅地造成	939	遺構・遺物あり	西村	KSS2018-1
24	11/12	別井三丁目	別井遺跡	個人住宅	1.5	遺構あり(時期不明)・遺物なし	林	
25	11/15	昭和町二丁目	新堂南遺跡	その他建物	1.5	遺構あり・遺物なし	林	
26	12/6～19	西板持町四丁目	西板持遺跡	店舗	100	遺構なし・遺物あり	林・ 渡邊	NI2018-1
27	12/11	西板持町七丁目	西板持遺跡	その他建物	0.8	遺構なし・遺物あり	林	

表3 試掘調査一覧

番号	調査日	所在地	調査原因	調査面積 (m ²)	調査結果	担当者
1	2/8	若松町一丁目	宅地造成	—	遺構・遺物なし（工事立会）	渡邊
2	3/2	大字東板持	その他開発	—	遺構・遺物なし（踏査）	角南・林
3	3/15	平町二丁目	個人住宅	3.9	遺構・遺物なし【国庫補助事業】	角南
4	3/26	若松町二丁目	共同住宅	2	遺構・遺物なし	角南
5	4/27	大字佐備	店舗	1.5	遺構・遺物なし	渡邊
6	5/10	本町	共同住宅	—	遺構・遺物なし（工事立会）	渡邊
7	5/18	寿町一丁目	宅地造成	3.9	遺構なし・遺物あり	林
8	6/11	昭和町一丁目	共同住宅	6	遺構・遺物なし	林
9	8/3	若松町五丁目	個人住宅	—	遺構・遺物なし（工事立会）	林
10	8/6	若松町西一丁目	共同住宅	6	遺構・遺物なし	渡邊
11	8/20	桜ヶ丘町	共同住宅	—	遺構・遺物なし（工事立会）	渡邊
12	9/6	中野町西二丁目	個人住宅	2	遺構・遺物なし	林・角南
13	9/14	若松町東三丁目	工場	3.2	遺構なし・遺物あり	渡邊・西村
14	9/20	宮甲田町	宅地造成	9.1	遺構・遺物なし	林・西村
15	9/21	大字甘南備	その他建物	—	遺構・遺物なし（工事立会）	角南
16	9/21	桜ヶ丘町	その他建物	2.4	遺構・遺物なし	渡邊
17	9/25	本町	共同住宅	—	遺構なし・遺物あり（工事立会）	林・西村
18	10/1	若松町東三丁目	工場	—	遺構・遺物なし（13の工事立会）	渡邊
19	11/29	平町一丁目	宅地造成	1.5	遺構・遺物なし	林



0

2 km

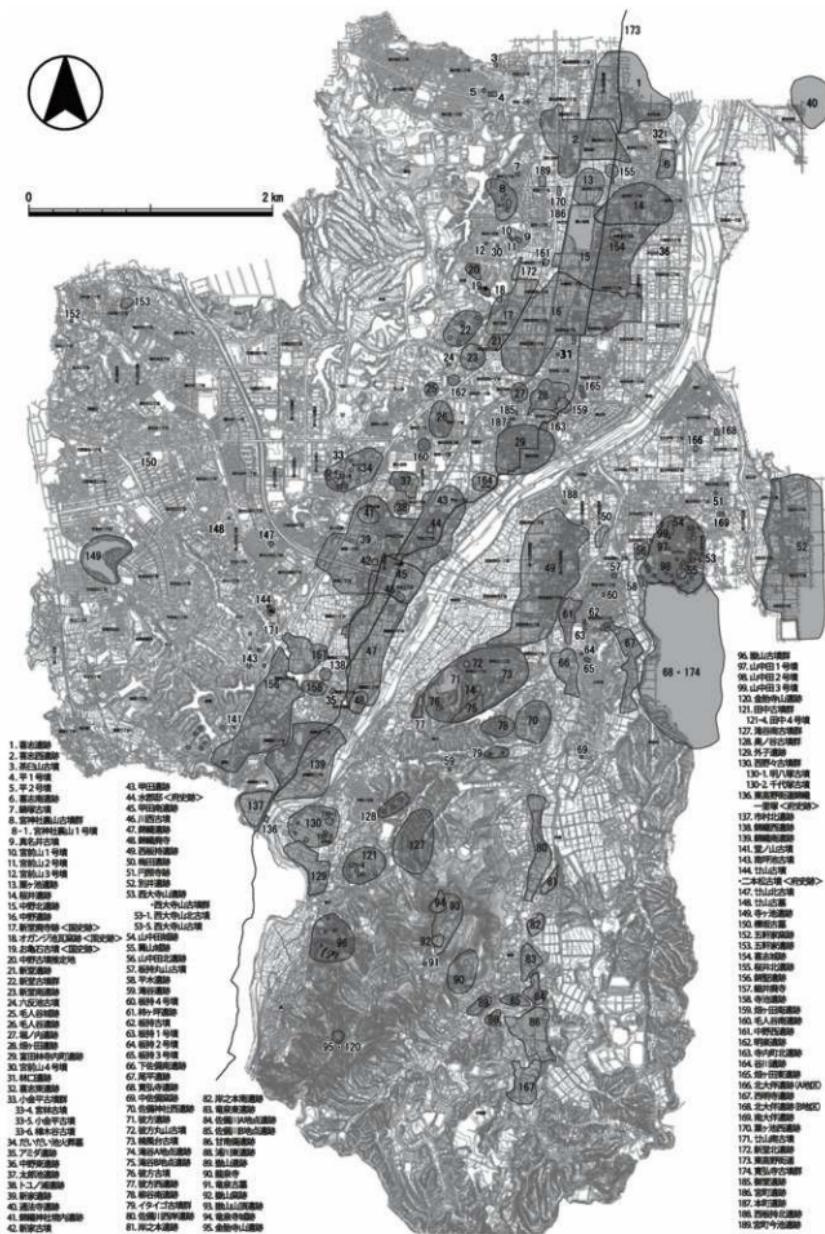


图1 市内遺跡分布図 (S=1/40,000)

第2章 甲田遺跡（KD2017-1）の調査

第1節 調査の経緯と経過

今回の調査地は、甲田二丁目の甲田遺跡内に位置する（図2）。個人住宅の新築工事に先立ち、平成29年11月29日付けで発掘届出書が提出された。周辺での調査状況をみると、浄化槽の設置が遺跡に影響を与える可能性が考えられたため、当該地の事前調査を行うことになった。また、その後の協議を進めるなかで、建築部分においても現況面から深さ80cmまで表層改良を行うことになり、浄化槽部分のトレンチでの結果次第では、建築部分の調査も実施することとした。

現地調査は平成29年12月21日から同月26日にかけて実施し、実働日数は4日間であった。

第2節 調査の成果

浄化槽設置の予定箇所に、南北2.7m、東西2mのトレンチを設定した（図3）。現況面から深さ約78cmまでの盛土層（土層番号1）を除去すると、旧耕作土・床土と思われる面を複数確認した（番号2～5）。遺物が出土するのは深さ約1.19mから1.76mの間の3層（番号6～8）で、ほとんどは灰色粘質土層（番号6・7）からである。これらの層の下には遺物が含まれず、暗灰黄色粘質土層（番号9）や粘性が非常に強い黒褐色粘質土層（番号10）が堆積しており、円礫を多く含む黒褐色粘質土層（番号11）を経て、現況面より深さ約2.3mで細砂の混じる暗灰黄色粘質土層（番号12）となる。トレンチ壁面からしみ出し続ける雨水が底面に溜まり、調査が困難かつ危険な状況となったため、今回はこの面で掘削を終えることとなった。各面において構造は確認できず、建築部分の表層改良についても、盛土以前の旧耕作土内に収まることが分かったため、支障なしと判断した。

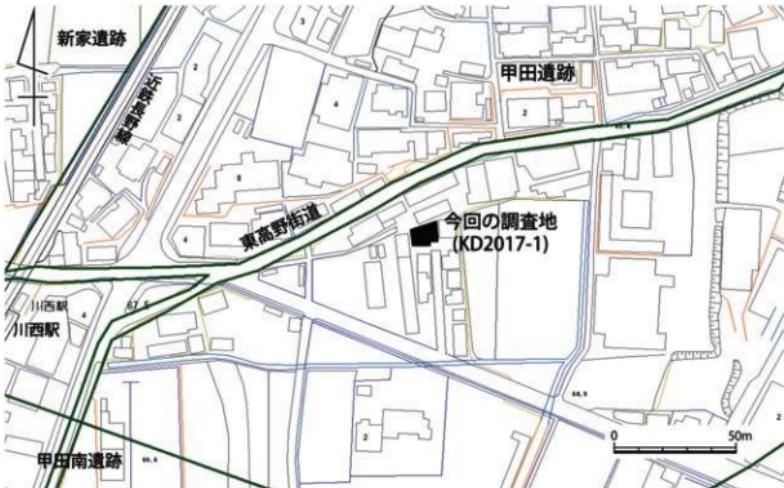


図2 調査位置図 (S=1/2,000)

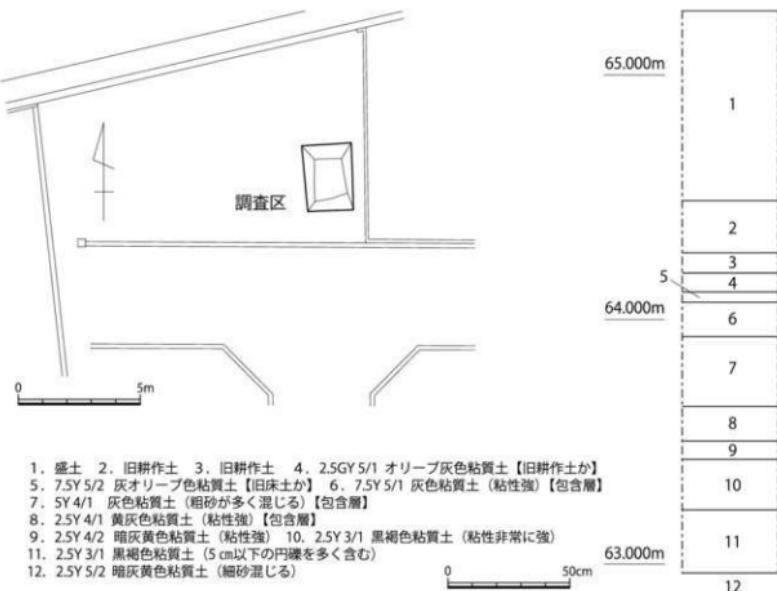


図3 トレンチ配置図 (S=1/200) および土層断面柱状図 (S=1/20)

出土遺物については、小片の土器が50点ほど出土している。ほとんどが土師器で、須恵器、黒色土器がわずかに認められ、瓦とサヌカイト片が各1点出土している。灰色粘質土層（番号7）から出土した黒色土器1点は高台部分で、A類と呼ばれる内面のみが黒いものであるが、小片かつ摩耗のため詳細な所属時期は分からぬ。

今回の調査はトレンチが狭小であり、遺構面や地山面を追及できなかった。隣接する甲田南遺跡では、「黒色帶」と呼称されている弥生時代から古墳時代にかけて形成されたとみられる黒色系土層があり、その上面には遺構が存在する（大阪府教育委員会2011、富田林市教育委員会2016）。灰色粘質土層から黒色土器が出土したため、それより下位の層（番号8～12）のいずれかが「黒色帶」と同時期に形成された可能性があり、今後の周辺調査の際は注意が必要である。



写真1 トレンチ近景（上：北から 下：西から）

第3章 錦織遺跡（NK2017-1）の調査

第1節 調査の経緯と経過

今回の調査地は、錦織東一丁目の錦織遺跡内に位置する。埋没古墳の葺石とみられる遺構を確認した平成27年度調査地（NK2015-1、富田林市教育委員会2017）から、南へ約60m離れた地点にあたる（図4）。ここで個人住宅の建て替えが計画され、平成29年11月28日付で発掘届出書が提出された。建築部分については、周辺の調査成果から盛土内に収まることが明らかであったが、浄化槽設置部分は遺跡に影響を及ぼす可能性があったため、調査の対象とした。

現地調査は平成30年1月24日から同月29日にかけて実施し、実働日数は4日間であった。

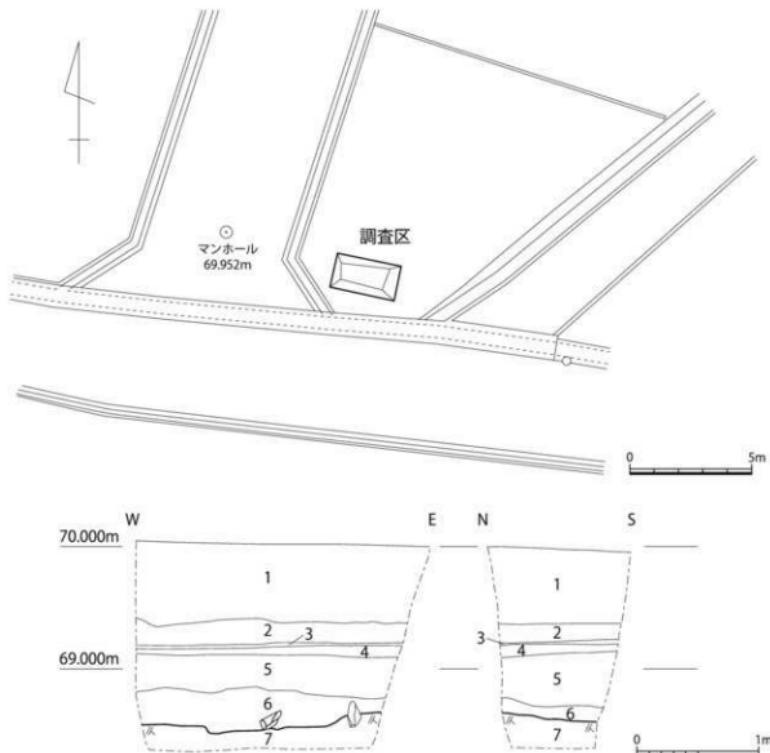
第2節 調査の成果

浄化槽設置の予定箇所に、東西2.7m、南北1.4mのトレンチを設定した（図5）。層厚約60cmの盛土（土層番号1）を除去すると、旧耕作土・床土層（番号2～4）となる。その下は遺物を少量含む暗褐色粘質土層（番号5）、遺物を含まない同色の砂礫層（番号6）と続き、現況面から深さ1.4～1.5mで黄褐色砂礫の地山（番号7）となる。各面に遺構は認められなかった。

今回確認した地山面の標高は68.5m前後であり、平成27年度調査地と比較すると、葺石が施された斜面の西側で検出した地山面（古墳の1段目テラス面か）とほぼ一致している。しかし、旧耕作土・床土層と地山面の間の堆積状況は異なり、古墳に関する新知見は得られなかった。



図4 調査位置図 (S=1/2,000)



1. 盛土 2. 旧耕作土 3. 旧耕作土 4. 旧床土 5. 10YR 3/3 暗褐色粘質土（3cm大前後の礫を多く含む）【包含層】
6. 10YR 3/3 暗褐色砂礫（10cm大前後の礫を多量に含む） 7. 10YR 5/6 黄褐色砂礫に10YR 4/4 褐色砂礫が混じる【地山】

図5 トレンチ配置図（S=1/200）および土層断面図（S=1/40）

出土遺物については、土師器が10点ほど、須恵器が1点、埴輪と思われるものが1点ある。ほとんどが小片であり、すべて包含層（番号5）から出土した。これらのうち、須恵器は無蓋高壺の坏部と思われるもので、所属時期は6世紀代と考えられる。

今回は前述の埋没古墳に直結するような知見は得られなかったが、小さな成果の蓄積が古墳の規模等の解明につながるものと考えており、今後の周辺での調査に期待したい。



写真2 トレンチ北壁状況（南から）

第4章 佐備川西岸遺跡（SGW2017-1）の調査

第1節 調査の経緯と経過

今回の調査地は、大字佐備の佐備川西岸遺跡内に位置する（図6）。個人住宅の新築工事に先立ち、平成30年1月12日付けで発掘届出書が提出された。道路を挟んで南側の隣接地（現在は工場敷地）では、平成10年度に調査を実施しており、弥生時代の遺物や中世の柵とみられるピット列などを確認している（富田林市遺跡調査会 1998）。今回の計画では、浄化槽の設置のほか、建築部分でも柱状改良が行われる予定であるため、遺跡に影響を及ぼす可能性があると判断し、両方にトレンチを設定して調査を行った（図7）。

現地調査は、平成30年2月19日から同月22日にかけての4日間で実施した。また、補足作業として、地形測量（レベル移動）を同月23日に実施した。

第2節 調査の成果

1トレンチは浄化槽設置の予定箇所に設定した。規模は南北約2.8m、東西約1.4mである。盛土（調査前の解体工事による攪乱を含む、土層番号1）を除去すると、複数面の旧耕作土・床土層（番号2～5）があり、にぶい黄色粘質土（番号6）、灰オリーブ色砂質土（番号7）、灰オリーブ色細砂（番号8）へと続く。トレンチ西半分については番号8の土層上面まで掘り下げ、東半分についてはさらに下位まで掘削したが、土層の変化はなく、遺物も出土しなかったため、層厚が40cm以上であることを確認するにどまつた（図9）。各面に遺構は認められなかった。



図6 調査位置図 (S=1/2,000)

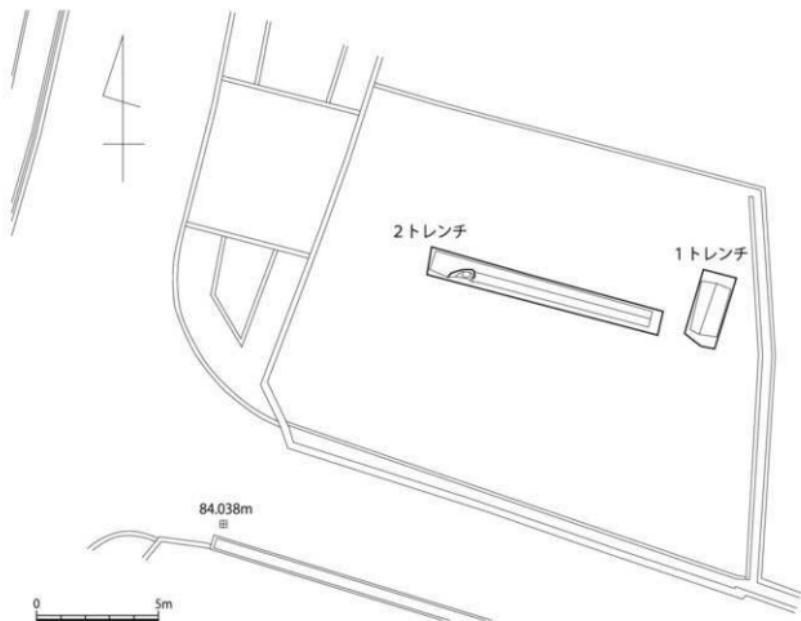


図7 トレンチ配置図 ($S=1/200$)

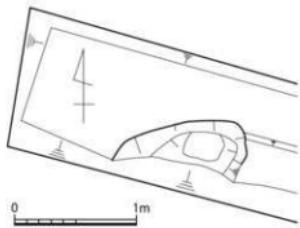


図8 2トレンチ遺構平面図
($S=1/40$)

2トレンチは建築部分のほぼ中央に、東西約10m、南北約1mで設定した。トレンチ西端附近では、明黄褐色砂礫および浅黄色シルトの地山面を確認できたが、東側を流れる佐備川に向かって地山面が下降しており、トレンチ西端より1.9mから東側については、地山面の追及を行っていない。

2トレンチのみに認められる土層は存在するが(番号15~17)、基本的な層序は1トレンチと変わらない。トレンチ南半分については、上面が比較的締まっていたにぶい黄色粘質土層(番号6)の上面、北半分については

灰オリーブ色細砂層(番号8)の上面まで掘削を行った(図9)。

遺構については、トレンチ西端付近で土坑状のものを1基確認した(図8)。少なくとも暗灰黄色粘性砂質土層(番号16)を掘り込んでいることは確実であるが、それより上は攪乱を受けている。埋土から遺物の出土はなく、近代以降の所産の可能性もある。東辺の一部については、滯水による変色が原因で肩部を見失い損壊してしまったが、トレンチ南壁で見る限りでは直径約1.2m、深さ約60cmである。

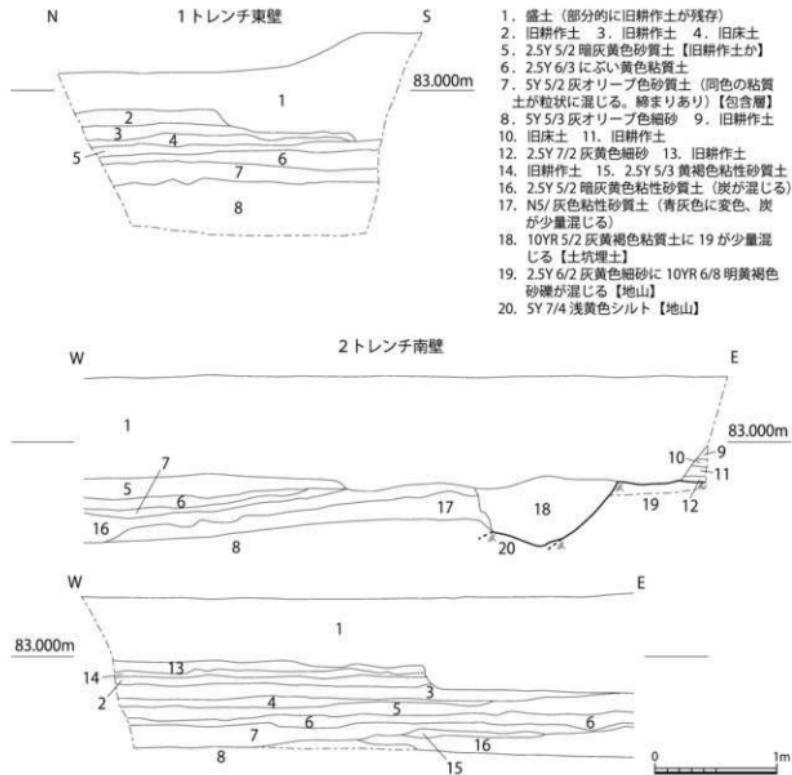


図9 土層断面図 (S=1/40)

出土遺物については、1トレンチで土師器が10点ほど、瓦器が1点出土している。2トレンチでは土師器が10点ほど、須恵器が3点出土している。2トレンチから出土した須恵器壺蓋1点以外は、すべて小片である。壺蓋は扁平な天井部につまみが付くもので、天井部以外が欠損しているため、所属時期については8世紀後半と推測するにとどめておく。遺構検出面直上に堆積する暗灰黄色砂質土（番号5）から出土した。

今回の調査でははっきりとした遺構を確認できなかったが、小片ながらも一定量の遺物が出土した。佐備川西岸遺跡での調査事例はまだ少なく、今後に向けて貴重なデータが得られたと考えている。

第5章 平町二丁目における調査

第1節 調査の経緯と経過

今回の調査地は平町二丁目に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地外である（図 10）。調査地から西側へ約 300m の羽曳野丘陵上には、採取された遺物から 6 世紀後半の築造と考えられる茶臼山古墳が存在するが、それを除けば近辺では今のところ遺跡は確認できていない。

調査対象となったのは、個人住宅の新築工事に伴う浄化槽設置部分であり、平成 29 年 10 月 24 日付けで提出された試掘調査依頼書に基づき、当該箇所にトレンチを設定した。調査は翌年の平成 30 年 3 月 15 日に実施した。

第2節 調査の成果

トレンチは東西約 3 m、南北約 1.3 m で設定し、各層で遺構の有無を確認しながら、最終的に現況面より深さ 1.1 m まで掘り下げる（図 11）。層厚 35 cm の盛土層（土層番号 1）を取り除くと、宅地化以前の旧耕作土面（番号 2）が現れ、現況面より約 73 cm まで複数面の旧耕作土・床土層（番号 3～10）が続く。その下は、旧耕作土に類似した土が多く混じる明黄褐色粘質土層（番号 11）で、現況面より約 87 cm で明黄褐色粘質土層（番号 12）となる。この土層は粘性が非常に強く、地山と判断した。旧耕作土層（番号 9）に土師質の土器の微細な破片が含まれていたが、それ以外には遺構、遺物は認められなかった。

以上の結果のように、新規の遺跡発見には至らなかった。しかし、今回の調査地を含む一帯はこれまでほとんど試掘調査を行う機会がなかったため、貴重なデータを得ることができたといえよう。今後も周辺での試掘調査を積み重ねていくことで、平町における歴史の一端を明らかにしていきたい。



図10 調査位置図 (S=1/3,000)

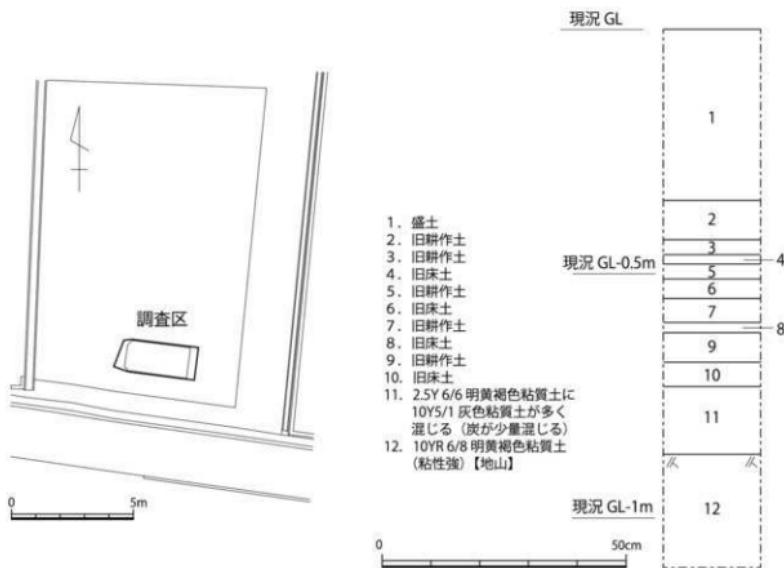


図11 トレンチ配置図 ($S=1/200$) および土層断面柱状図 ($S=1/10$)



写真3 トレンチ近景 (左: 西から 右: 南西から)

第6章 樟木谷古墳・小金平古墳群（KGH2018-1）の調査

第1節 調査の経緯と経過

今回調査の対象となった樟木谷古墳は美山台に所在し、立地的には石川西岸の羽曳野丘陵東端部の尾根筋に位置する（図12）。平成26年の現地踏査で古墳である蓋然性が高いと判断し、遺跡登録を行ったが、すでに宅地に接する東側と道路沿いは崖状を呈しており、本来の形状は不明であった。かつて古墳のすぐ東側には前期古墳の宮林古墳が存在し（調査後に消滅、富田林市教育委員会1984・1985）、60m東側の地点では後期古墳の小金平古墳を発掘調査で確認している（調査後、甲田西児童遊園内に石室を移築復元）。これらの総称が小金平古墳群であり、樟木谷古墳は現存する唯一の古墳となっている。

周辺一帯の宅地化が進むなかで、開発を免れてきた当古墳であったが、平成30年4月に個人住宅の建築計画についての協議が始まり、同年6月21日には発掘届出書の受理に至った。計画では道路面の高さに揃える形で墳丘の削平を行うことから、古墳の取り扱いを協議するにあたっての必要なデータを得るために、範囲確認調査を行うことになった。

まず、発掘調査に先立って除草作業を行い、実施可能な範囲で地形測量を行った。その結果をもとに、墳丘の尾根上ならびに斜面上の塚状の高まり部分に合計2本のトレントを設定し（図13）、8月8日から同月29日まで現地調査を実施した。実働日数は10日間である。掘削はすべて人力で行い、発掘調査の総面積は46.3m²である。

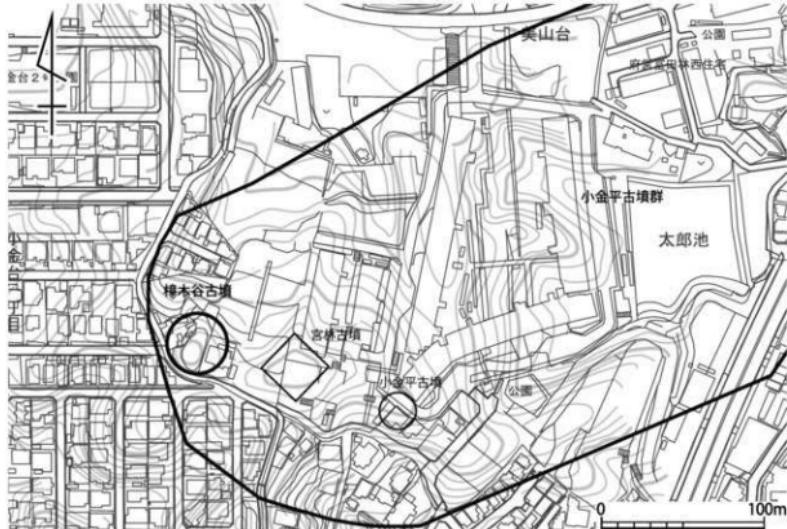


図12 調査位置図 (S=1/3,000)

※現況図に昭和50年代前半頃の地形図（薄い色の等高線）を重ねた。

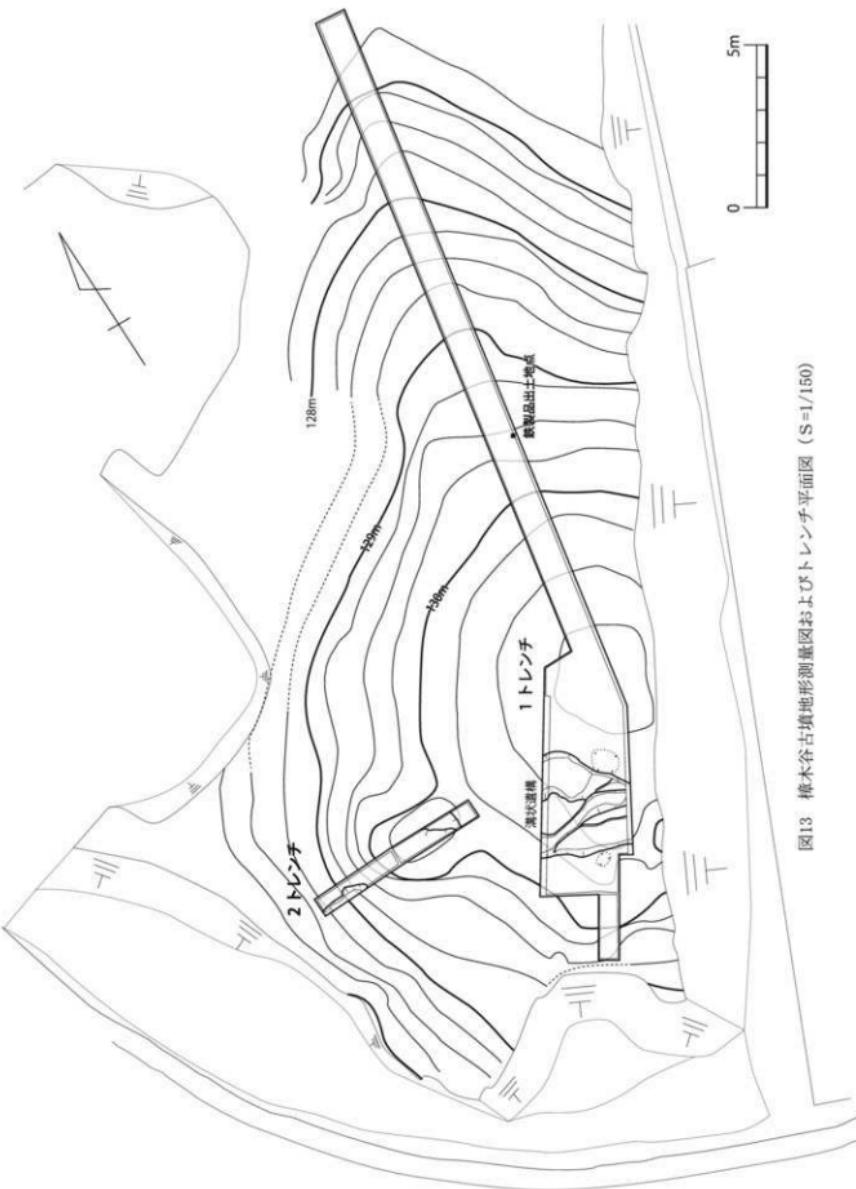


図13 榎木谷古地形測量図およびトレンチ平面図 (S=1/150)

第2節 調査の成果

基本層序は両トレンチで異なる。尾根上の1トレンチは表土直下が地山で、部分的に層厚0.1m程度の浅黄色砂質土を挟む(図14)。塚状の高まり部分の2トレンチは、表土の下に層厚約0.6mの盛土、旧表土(1トレンチから続く表土層)、浅黄色粗砂混じり粘質土層、灰白色シルト混じり粗砂礫層と微砂～極細砂層のよく締まった地山となる(図15)。以下、トレンチごとに成果を記載する。

1トレンチ 削平を受けている東側側面に平行する形で墳頂部にトレンチを設定し、それを起点に尾根上へ延ばした全長27m、幅1mのトレンチである。墳頂部南端の表土直下の地山面において遺構を検出したため、西側に幅最大2m、南側に長さ3.5m、幅0.5mの範囲で拡張して調査を行った。

遺構は東西方向の溝状遺構で、長さ2.7m以上、幅は最大2.5m、深さ0.3mを測る(図14)。2条以上からなり、南西側に傾斜し、トレンチ外に延びる。平面形から切り合い関係が認められるが不明瞭で、埋土は区別できないほど類似している(土層番号21および21')。断面観察から前後関係は判断できなかったが、おそらく時期差はほとんどないものと考えられる。遺物が含まれず、性格等も明らかではないが、古墳が土採り以外で後世に改変を受けた形跡がないことを考慮すると、古墳に關係する遺構とみるのが妥当であろう。

なお、溝状遺構の北側にみられる層(土層番号20)は今回地山と判断したが、他の部分と比較すると砂礫の堆積方向が異なっており、土層番号18との境界が溝状遺構の肩部に沿うような傾斜であることから、溝状遺構との關係も含めて検討を要する。

本トレンチでの唯一の遺物として、墳頂より北へ約9mの地点の地山面上で、何らかの刃先と思われる鉄製品の破片1点(残存長約4cm、最大幅約1.8cm)が出土した(図版4)。所属時期は不明である。

表4 1トレンチ東壁断面図土層一覧

1. 10YR5/2 底黄色砂質土【表土】
2. 2.5Y7/3 浅黄色砂質土(径0.5～1cm大的礫を含む)に部分的に2.5Y8/3 浅黄色粘土ブロックを含む
3. 5Y7/3 浅黄色粘土(やや粗混じり)
4. 10Y8E/4 にぶい黄褐色シルト混じり砂質土(径0.5～1cm大的礫を含む)に部分的に2.5Y8/3 浅黄色粘土ブロックを含む
5. 10Y8E/4 にぶい黄褐色粘土【地山】
6. 2.5Y8/2 灰白色粘土-2.5Y7/6 明褐色粗砂土(鉄分を含む)【地山】
7. 10Y8E/6-6/4 明褐色～にぶい黄褐色粗砂混じり粘質土 よくしまる 粘性あり【地山】
8. 2.5Y7/2 变黄色粘土【地山】
9. 2.5Y7/4 浅黄色粘土 部分的に白色砂礫を挟む 鉄分沈着【地山】
10. 12.5Y7/4 浅黄色粘土 部分的に粗砂礫をブロック状に含む 9層とほぼ同質 鉄分沈着なし【地山】
11. 10Y8/4 にぶい黄褐色シルト混じり粗砂 よくしまる【地山】
12. 2.5Y7/3-7/4 浅黄色粘土 部分的に粗砂礫をブロック状に含む(10層と同じ)【地山】
13. 10Y7/4 にぶい黄褐色シルト混じり粗砂(よくしまる) 2.5Y8/3浅黄色粘土ブロックを少し含む 層境に鉄分沈着(11層と類似)【地山】
14. 2.5Y7/2-7/3 灰白色～浅黄色粘土 部分的に白色砂礫を挟む(9層と類似)【地山】
15. 2.5Y8/2 灰白色粘土 墓頂付近の層内に2.5Y7/3 淡赤褐色砂質粘土ブロックを帯状に含む【地山】
16. 2.5Y8/2 浅白色シルト質粘土(やや粗砂混じり) よくしまる 鉄分沈着【地山】
17. 2.5Y8/2 浅白色粗砂混じり粘土 (16層と同層だが、16層より粗砂強い)【地山】
17. 10Y7/2 にぶい黄褐色シルト質砂 細粒的・粗砂混じる 下部に鉄分沈着 よくしまる【地山】
18. 2.5Y7/4-8/3 浅黄色～淡黄色粗砂混じり粘質土 粗砂礫と粘土の互層【地山】
19. 10Y7/6 明褐色粗砂粘土【地山】
20. 10Y7/4 にぶい黄褐色砂土(よくしまる) に10Y8/2 灰白色粘土ブロックを含む 砂礫方向が他層と異なる。【地山か】
21. 2.5Y8/4-8/3 浅黄色～淡黄色粘土の互層 鉄分粒々状に沈着【溝状遺構埋土】
21. 2.5Y8/3-8/4 浅黄色粘土の互層 鉄分ラミナ状に沈着 21層と同質【溝状遺構埋土】
22. 10Y8/2 底黄色シルト混じり砂質土(22層が表土の影響受けた)
22. 10Y8/2 底黄色シルト混じり粗砂 よくしまる 2トレンチ7層と同じ【地山】
23. 2.5Y8/1 灰白色粗砂～粗砂 よくしまる 2トレンチ7層と同じ【地山】
24. 2.5Y8/2-8/3 灰白色～浅黄色粘土【地山】
25. 2.5Y8/8 黄色シルト質粘土 よくしまる 鉄分鉛方向の沈着あり【地山】
25. 2.5Y8/8 黄色粗砂混じりシルト質粘土 よくしまる 鉄分鉛方向の沈着あり【地山】

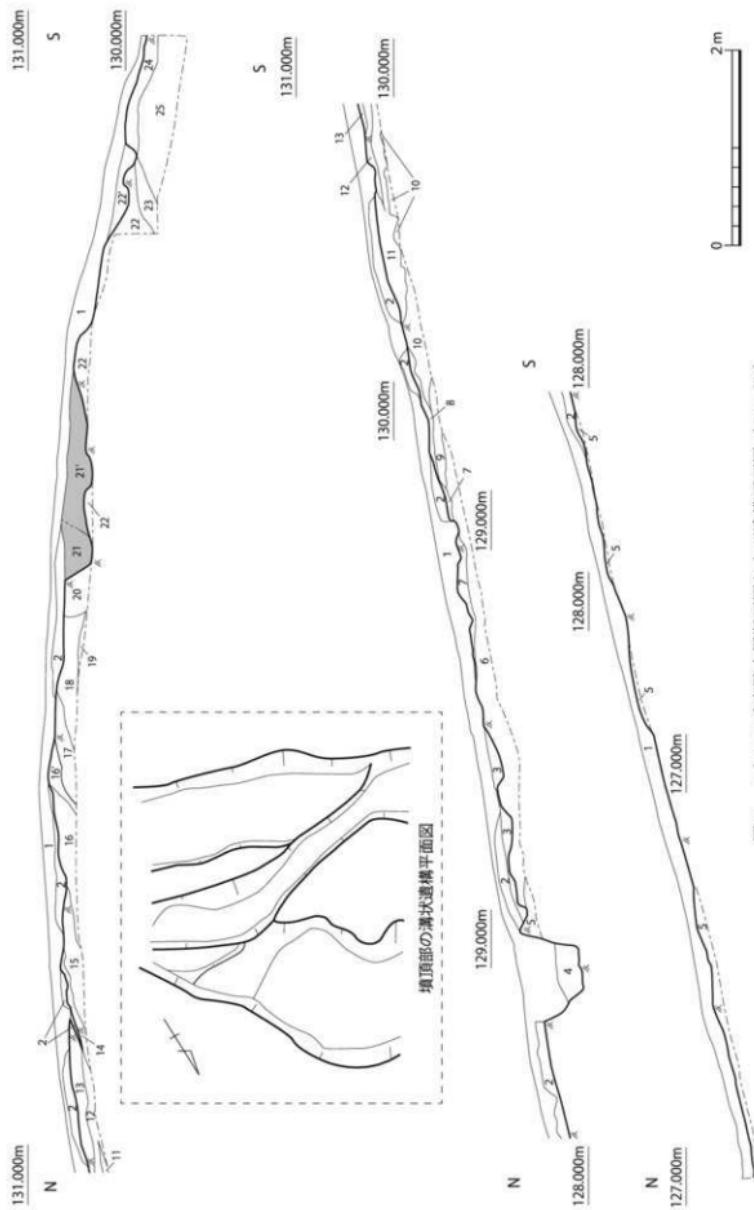
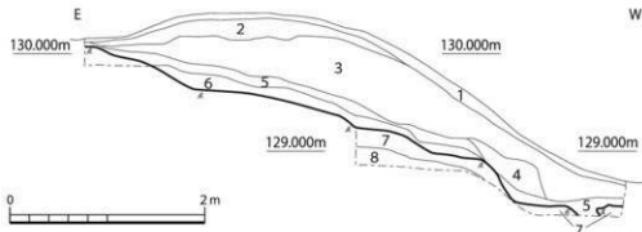


図14 1 レンチ東縁土層断面図および遺構平面図 (S=1/50)

2 トレンチ 墳丘東側斜面には、南北2m、東西3mの塚状の高まりがある。これまでの小金平古墳群の調査では、奈良時代の火葬墓を複数確認しており、この高まりについてもそれに伴うものの可能性が想定されたため、性格を明らかにしておく必要があった。そのため高まりを縦断するように全長5.6m、幅0.6mのトレンチを設定した。調査の結果、盛土を構成する層の直下で1トレンチから続く表土を確認し、盛土にはモルタル片が含まれていた。過去に墳頂部付近で土採りを行っていたとの土地所有者の証言もあることから、その際に排出された盛土ではないかと考えられる。

この現代盛土と地山の間には、浅黄色粗砂混じり粘質土（土層番号6）が認められた。地山層に類似するものの、1トレンチでは確認できなかった土層であり、南西側に傾斜する旧表土が一段落ち込む部分より先には存在しない。今後の調査での確認を待たなければならないが、墳丘盛土である可能性を指摘しておきたい。このトレンチでは遺構、遺物はみられなかった。



1. 10YR4/1 灰黃褐色砂質土【表土】
2. 10YR7/3 にふい黄橙色粗砂礫混じり土【現代盛土】
3. 10YR7/4 にふい黄橙色粗砂礫混じり土(3層と5層の混合層)【現代盛土】
4. 10YR7/4 にふい黄橙色粗砂礫混じり土(3層と5層の混合層)【現代盛土】
5. 2.5YR6/1 黄灰色土(1トレンチ表土に同じ)【旧表土】
6. 2.5Y7/4 浅黄色粗砂混じり粘質土【墳丘盛土の可能性あり】
7. 10YR8/2 白灰色シルト混じり粗砂礫 よく綿まる(1トレンチ22層に同じ)【地山】
8. 2.5Y8/1 灰白色微砂～細砂 よく綿まる(1トレンチ23層に同じ)【地山】

図15 2トレンチ南壁土層断面図 (S=1/50)

第3節まとめ

1トレンチで検出した溝状遺構は、性格や時期などは不明であるが、現状での墳頂部に近い位置にあることから、古墳に関わる遺構の可能性が考えられる。2トレンチでは墳丘盛土の可能性がある土層を確認したが、1トレンチでの堆積状況を考慮すると、隣接する宮林古墳と同様、墳丘の整形は地山削り出しが主体であったと思われる。

墳丘は東側を中心に本来の三分の一程度が削平されていると考えられるが、埋葬施設の痕跡が残存している可能性は否定できない。今回確認した溝状遺構との関係も検討が必要である。築造時期を推定できる遺物が出土せず、埋葬施設の種類は不明と言わざるを得ないが、安全面の問題から今回調査を見送った東側から南側にかけての崖面を精査すれば、何らかの情報を得られるかもしれない。引き続き申請者との協議を進め、必要な措置を講じていきたい。

参考・引用文献

- 大阪府教育委員会 2011『甲田南遺跡 — 一般国道(旧)170号線歩道設置工事に伴う発掘調査 —』(『大阪府埋蔵文化財調査報告』2010-8)
- 田中 琢 1967「古代・中世における手工業の発達(四)畿内」『日本の考古学』IV(『歴史時代』上)
河出書房
- 富田林市遺跡調査会 1998『佐備川西岸遺跡』(『富田林市遺跡調査会報告』18)
- 富田林市教育委員会 1984『中野遺跡発掘調査概要』V(『富田林市埋蔵文化財調査報告』10)
- 富田林市教育委員会 1985『中野遺跡・宮林古墳発掘調査概要』(『富田林市埋蔵文化財調査報告』13)
- 富田林市教育委員会 2016『平成27年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書』(『富田林市文化財調査報告』57)
- 富田林市教育委員会 2017『平成28年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書』(『富田林市文化財調査報告』59)

報告書抄録

ふりがな	へいせい30ねんど とんだばやししないいせきぐんはつくつちょうさほうこくしょ						
書名	平成30年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書						
副書名							
巻次							
シリーズ名	富田林市文化財調査報告						
シリーズ番号	65						
編著者名	角南辰馬、西村 雅美						
編集機関	富田林市教育委員会						
所在地	〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1番1号 TEL0721-25-1000(代)						
発行年月日	2019(平成31)年3月31日						

ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積(m ²)	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
こうだいせき	とんだばやし こうだいにちゅうめ							
甲田遺跡	富田林市 甲田二丁目	27214	43	34° 29' 33"	135° 35' 34"	20171221 ～ 20171226	5.4	個人住宅
にしこおりいせき	とんだばやし にしこおりにちゅうめ							
錦織遺跡	富田林市 錦織東一丁目	27214	47	34° 29' 16"	135° 35' 25"	20180124 ～ 20180129	4.1	個人住宅
さびがわせいがんいせき	とんだばやし おねあざぎ							
佐備川西岸遺跡	富田林市 大字佐備	27214	80	34° 28' 3"	135° 36' 9"	20180219 ～ 20180223	13.9	個人住宅
いせきがい	とんだばやし ひららうにちゅうめ							
遺跡外	富田林市 平町二丁目	27214	—	34° 31' 43"	135° 36' 11"	20180315	3.9	個人住宅
ぐのきだにこふん こがねひらこふんぐん	とんだばやし みやばだい							
樟木谷古墳・ 小金平古墳群	富田林市 美山台	27214	33	34° 29' 52"	135° 35' 4"	20180808 ～ 20180829	46.3	個人住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
甲田遺跡	集落跡	弥生～中世	—	土師器、須恵器、黒色土器	—
錦織遺跡	集落跡	縄文～中世	—	土師器、須恵器、埴輪	—
佐備川西岸遺跡	集落跡	弥生～中世	土坑	土師器、須恵器、瓦器	—
遺跡外	—	—	—	—	—
樟木谷古墳・ 小金平古墳群	古墳	古墳	溝状遺構	鉄製品	墳頂部で溝状遺構を確認した。

図 版



1 トレンチ東壁（西から）



2 トレンチ南壁（北東から）



2 トレンチ遺構（北東から）

図版2 樟木谷古墳・小金平古墳群（KGH2018-1）



図版3 樟木谷古墳・小金平古墳群 (KGH2018-1)



1 トレンチ 溝状遺構検出状況（北から）



1 トレンチ 溝状遺構完掘状況（北西から）

図版4 樟木谷古墳・小金平古墳群（KGH2018-1）



1 トレンチ 鉄製品出土状況（西から）



1 トレンチ 尾根上部分全景（北から）



2 トレンチ全景（西から）

平成30年度富田林市内遺跡群発掘調査報告書

発行年月日 2019年3月31日

編集・発行 富田林市教育委員会

住 所 富田林市常盤町1番1号

印 刷 明朗社